

PM2.5 環境基準の達成率 3割以下【環境省】

環境省は、微小粒子状物質（PM2.5）に関する大気汚染状況の測定結果を取りまとめ、公表した。それによると、測定局 46 局のうち環境基準を達成したのは 12 局の 26%に過ぎなかった。

◆環境新聞 2012年2月29日付

PM2.5

基準達成は3割未滿

環境省
まとめ
測定体制の整備急務

環境省は24日、10年度の微小粒子状物質（PM2.5）に関する大気汚染状況の測定結果を取りまとめ、公表した。それによら、有効測定局46局のうち、長期と短期の両方の環境基準を満した環境基準達成局は12局で、約26%という結果となった。

（10月に関連記事）

長が受け入れる考えを示した一方、欠陥した3町長は政府側が説明するよう要請した。環境省記者会見した細野環境相は「こうした形になったことと、われわれに責任がある」と述べた。中野町破産は破産に陥り、でも欠かせない施設、それが破局のためもあることを、ぜひ理解いたしてほしい」と述べた。中野町破産について、政府は昨年12月に、双葉郡内への建設を佐藤雄平知事や8町村長に要請し、地帯を19年度中に選定し、3年後をめぐりに運用を始める予定としている。

PM2.5の環境基準（測定法との等価性を有）は、09年9月に設定される自動測定機の使用において、今回の測定結果が基準設定後初めて、標

	一般局	自排局
有効測定局	34局	12局
環境基準達成局 （長期基準と短期基準ともに達成した測定局）	11局 (32.4%)	1局 (8.3%)
環境基準非達成局	23局 (67.6%)	11局 (91.7%)
長期基準に対してのみ達成した測定局（短期基準は非達成）	7局 (20.6%)	1局 (8.3%)
短期基準に対してのみ達成した測定局（長期基準は非達成）	0局 (0.0%)	0局 (0.0%)
長期基準と短期基準ともに非達成の測定局	16局 (47.1%)	10局 (83.3%)

PM2.5の環境基準達成状況

は、1立方メートルあたり1年平均値（長期基準）が15マイクログラム以下で、1日平均値（短期基準）が35マイクログラム以下とされている。

測定結果を見ると、09年度末現在の測定局数は、73局（一般局49局、自動車排出ガス測定局24局）であり、このうち標準測定法との等価性を有する自動測定機による有効測定局数が250以上である。有効測定局数は46局（一般局34局、自排局12局）となっている。これらの環境基準達成率は、一般局で32.4%（11局）、自排局で8.3%（1局）、合計で26%（12局）となった。また、環境基準非達成局（一般局23局、自排局11局）のうち、黄砂の影響により非達成となったのは5局（全て一般局）だけとされている。

有効測定局が存在しない自治体があるなど、有効測定局数が十分でない上、黄砂汚染の可能性もあることから、全国的な評価は困難だが、多くの地域で環境基準が達成され、いない状況が浮き彫りとなった。環境省では今後、全国的な環境状況把握に向けて、早急に測定体制の整備や成分分析を実施するとともに、これらのデータを活用して発生源の把握や生成機構の解明等を進めていくとしている。